

## 第1回 調布市産業振興プラン策定検討委員会 会議録

令和6年5月30日(木)  
午後5時から6時30分まで  
調布市役所5階 市長公室  
傍聴者 0名

### <出席委員>

八幡 一秀, 鎌田 裕美, 秋沢 淳雄, 大前 勝巳, 高木 克人, 戸嶋 容子,  
二羽 信介, 渡邊 智宏, 長峰 美夫, 武口 彩佳

### <次第>

- 1 開会
- 2 委員会の概要及び委員紹介
- 3 委員長及び副委員長の選任・委員長挨拶
- 4 議事
  - (1) 策定の目的や位置づけ, これまでの取組や構成について
  - (2) 基礎調査(アンケート調査)の結果報告
  - (3) 市の強みと弱み
- 5 その他
  - (1) スケジュールについて
  - (2) 事務連絡
- 6 閉会

### <資料>

- 1 調布市産業振興プラン策定検討委員会要綱
- 2 調布市産業振興プラン策定検討委員会委員名簿
- 3 (仮称)調布市産業振興プランの策定について
- 4 (仮称)調布市産業振興プランの策定に向けた基礎調査結果(概要版)
- 5 (仮称)調布市産業振興プランの策定に向けた基礎調査結果(詳細版)
- 6 調布市の産業施策の強み・弱み
- 7 (仮称)調布市産業振興プラン策定スケジュール(予定)
- 8 (参考資料)調布市基本計画(分野別計画の施策10, 17, 19抜粋)

<会議録>

1 開会

鈴木産業振興担当部長よりあいさつが行われた。

2 委員会の概要及び委員紹介

出席委員よりあいさつが行われた。

3 委員長及び副委員長の選任・委員長挨拶

委員会要綱に基づき、互選により学識経験者である八幡委員が委員長に選任され、鎌田委員が副委員長に選任された。

4 議事

(1) 策定の目的や位置づけ、これまでの取組や構成について

事務局より資料3の説明が行われた。

八幡委員長 何かご意見やご質問はあるか。

(特になし)

(2) 基礎調査（アンケート調査）の結果報告

事務局より資料4・資料5の説明が行われた。

八幡委員長 何かご意見やご質問はあるか。

大前委員 市内事業者実態調査の対象事業者の抽出について、業種も無作為に抽出したのか。

事務局 経済センサスのデータをもとに産業大分類に沿って抽出し、業種数ごとに割合を案分している。

大前委員 有効回収数が603件であり、市内事業者の約10%しかない。産業振興プランは商業や観光に関連したものと理解している。商業に絞ってみてみると、この結果で示された傾向と変わってくるのではないかと。商工会だけでも3,000の事業所がいるが、そのあたりを使うことはできなかったのか。

事務局 令和2年度、3年度にも、事業所に対しての経営実態調査を行っている。それらの調査結果も踏まえて、現状を分析したい。

長峰委員 概要では出ていないが、本編をみると来街者調査では年代別にも分析している。しっかりと見ている訳ではないが、市民実態調査では年代別の分析がされていないように見受けられた。商業や観光という意味では、年代別で傾向が異なると思うので、市民実態調査でも年代別の分析があると良い。シニア層と若者では今後の対応も異なると思うので、対応が可能ならお願いしたい。

事務局 市民実態調査でも、年代ごとの片寄りがないよう、標本数を調整して実

施した。年代別のクロス集計を行っている設問もあるが、あらためて確認したい。

### (3) 市の強みと弱み

事務局より資料6の説明が行われた。

八幡委員長 初めにある商工業振興について、商工会の副会長さんから、ご意見をいただければと思う。

秋沢委員 この強みと弱みに示されているとおりだと思う。調布商工会には2,950の会員がいて、調布市内の事業所が約6,000あると言われているので、組織率は約50%となっている。そのうち1,650が商業部会。また、3年前から工業部会からサービス業部会が分離して750くらい。主な会員は、弁護士、美容・理容等。工業が成り立たなくなってきたので、サービス業部会に分割した。商業部会の1,650の中身を見ると、10年前くらいには30あった商店会が、現在では23になっており、今後、数年で1～2の商店会がなくなるのではないかと危惧している。商店会自体が成り立たなくなっているのが現実である。調布の中で一番大きな商店会には100以上の会員はいるが、実際に商売をやられているのは、おそらく半数もない。将来的には、生鮮三品（肉屋、八百屋、魚屋）を扱う店舗のある商店街を増やしたい。それに付随する店として、酒屋、米屋等がある。昔の商店街には生鮮三品の店があったが、今では殆どなくなっている。調布駅から布田にかけて旧甲州街道沿いにある商店会には40会員くらいいるが、その半分くらいが美容師、医院等のサービス業で、酒屋、米屋、魚屋がそれぞれ1軒しかない。そういう実態になってきている。市民アンケートの結果を見ても、買い物は大型スーパーが多いのが実情。とはいうものの、調布市のまちの活性化のためには、どう回遊してもらうのか。現状の弱みをどのようにクリアしていくのか。そのためには、事業者支援や起業ができるまちにしていくことも必要。どうしたら商店街の中に商売ができる店が並ぶようなまちづくりができるのかについては、今後、模索していく必要がある。

また、調布市には、強みとして観光資源がたくさんある、まちのテーマパークといえる。例えば、ディズニーランドであれば、パーク内で回遊して、食事をしたり、催し物を見たりする。しかし、調布では、味の素スタジアムに行ってもそのまま新宿に行ってしまうとか、深大寺から高尾山に行ってしまうたりしている。1つのポイントだけに行くと、市内の他の場所を回遊することがない。どうしたら回遊してもらえるのかを検討していきたい。同時に、調布には24万人の市民がいるので、そうした市民をどのように調布の中で動かしていくのかも考える必要がある。商店会の中で夏祭りを行うのが12～13商店会。歳末の大売り出しをする商

店会もある。例えば、西調布にある商店街に仙川の人達が行ってみるとか、市民に回遊してもらうことも必要なのではないか。京王電鉄さんと連携しながら、市内を回遊できるような切符を作ってもらうようなことも必要なかと思う。1つ1つの素材で終わるのではなく、つなぎあわせることが大切。最後にするが、調布には三大祭りとして、福祉まつり、スポーツまつり、商工まつりがある。昨年、初めて、スポーツまつりと商工まつりを同時期に開催し、スタンプラリーで回遊できるようにした。そうすることで、商工まつりにきた人がスポーツまつりにも行くような、市民を動かしていくことができた。そういう形で、1つ1つの強みを掛け合わせることで、さらに大きな強みにしていくことが必要だと思う。

八幡委員長 現状での商工業、観光業の状態をお話しいただいた。事業者支援についてお話しをいただければと思う。電気通信大学の高木委員、いかがか。

高木委員 電気通信大学にはベンチャー企業が40社あるが、そのうち先生が起業した数が27社、大学生が在学中に起業した数が13社となっている。創業相談を結構受けている。また、創業後も資金調達の支援をしている。成り手不足や事業承継がうまくいっていない要因は、継承しても生活が成り立たないからだと思う。モノの売買をするような小売のビジネス自体が、どんなに努力をしても成り立たないようなスキームに今の経済はなってしまうている。それでは、どうすれば良いかというと、ミクロな中でやるのではなく、大きくグローバルに資金調達していかなければならない、というのが1つ施策としてあると思う。電気通信大の場合、40社のうち4社が資金調達に成功している。4社累計での資金調達で20億円を超えている。その資金を有効活用できているかということ、そこからまた大きなハードルがある。そこをエグジットするために、株式公開や大手に売却するという方策がある。まだ、そこまでは達していないというのが、直近3年間の状況である。こうした例を、セミナー等で話をして、何かを売ってお金を稼ぐというビジネスがそもそも成り立たなくなっているという感覚を、なるべく若いうちから知っておかないと、どうあがいても失敗してしまう。違うやり方、グローバルに考えなければいけないという点を理解してもらうようなセミナーが必要なのではないかと感じた。

八幡委員長 今話しのあった資金調達等、様々な面でご苦労があるということだった。今回、多摩信用金庫の渡邊委員に参加いただいているので、何かご意見をいただけないか。

渡邊委員 調布市と包括連携協定を結んでいる。価値創造のセクションに属しており、専門の土業の先生と連携しながら、起業を支援する活動を行っている。調布市は、創業する顧客は多く、中小企業のおっせん制度を実施していただいているが、その件数も多い。個人での創業が多く、数百万円

という資金がスタートするに際して、足りないというところでの支援が多い。創業なくして地域の活性化はないと考えている。

八幡委員長 価値創造というお言葉をいただいたが、学界でも価値創造という言葉を使う研究者も多い。同じ価値創造を沿線で行うということを担当されている京王電鉄の二羽委員から、ご意見をいただければと思う。

二羽委員 我々が今、力を入れているのは、地域連携。どうつないでいくのか。先日のWリーグのプレーオフでは、観戦者には、調布市内の180店舗の優待サービスを大前委員等と連携して実施した。また、調布市内の様々な企業やお店と連携して、グッズを作った。例えば、秋沢委員とは、選手の出身地のお米を1合分詰めて販売したり、甲州街道にある会社とラムネを作ったり、印刷屋と一緒に選手の写真入りのトランプを作ったり、つつじヶ丘のコーヒー店と一緒にコーヒーを作ったり。1つ1つ独立しているところをつないでいくことにより、より経済的な付加価値を創出することが目標となる。今後も、こうした取組に力を入れていきたい。交通という点では、鉄道、バス、タクシーがあるが、調布市ではシェアサイクルに力を入れている。味の素スタジアムから深大寺に行く人はあまりいないが、公共交通機関を使うと30～40分かかるが、自転車であれば10分程度で行くことができる。実は、深大寺の門前にシェアサイクルのポートを新設したりしている。そうした取組を増やし、連動していくことができれば、地域経済の活性化につなげることができると思う。

八幡委員長 雇用・就労の分野について、ハローワーク府中の戸嶋委員からご意見をいただきたい。

戸嶋委員 ハローワーク府中というのは、5市を管轄しているので、特定の1市の方だけが来る訳ではない。県をまたいで来る方もいる。気になったのは、来街者実態調査の対象が遊びや観光を目的に来たとあるが、市外からの就業者もいると思う。他の方からみて、調布市は「どんなまちなのか、何をやっているのか」と興味を持ってもらうことが集客につながると思う。実際に、調布市内に働いている方に焦点を当てても良いのではないかと。来ていただければ、そこで飲食の機会も生まれるし、様々な商業施設に来てもらえる。また、現在、人手不足感があり、人が集まらないので、黒字であっても稼働できないところもある。働く人が興味を持って調布に来られるという視点があっても良いかと思う。

八幡委員長 最後に、若い市民代表としてご参加いただいている武口委員から、ご意見をいただきたい。

武口委員 調布に住んでいて、味の素スタジアムや深大寺等、観光施設は結構あると思うが、若い人が、そこで何を食べるかと言ったら、名物がない。若い世代の人は、インスタグラムやSNSで映えるフードやスイーツを食べる。もう少しSNSの発信に力を入れて、「ここには、こういう映えるス

「イーツがあるよ」とか、そういう発信をしていったら、もう少し盛り上がるし、若い人たちも調布に足を運ぶのではないかと。八幡委員長 他にご意見があれば、事務局に連絡いただきたい。

## 5 その他

(1) スケジュールについて

(2) 事務連絡

事務局より次回策定委員会の日程について、説明が行われた。

## 6 閉会

鎌田副委員長 議事が全て終了したので、第1回調布市産業振興プラン策定検討委員会を閉会する。

以上